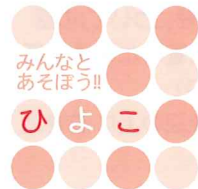


## 社協会費のご協力ありがとうございます。

下田市社会福祉協議会は市民のみなさまと共に『誰もが安心して暮らせるまちづくり』を目指した地域活動へ取り組む民間団体(社会福祉法人)です。日々様々な活動に取り組んでいますが、みなさまのご存知のとおりその内容はより複雑となっており、多くの活動資金を必要とする現実があります。その地域福祉活動を支える重要な財源として地域のみなさまから毎年一世帯あたり500円(年額)を社協会費としてご支援いただいております。本年度も下田市全39行政区の区長様を通じて3,274,560円のご協力を賜りました。みなさまのご支援に厚くお礼申し上げます。今後もみなさまと共に社会福祉事業を推進してまいります。



### ひよこのお知らせ

おともだちつくる!

### 子育ての息抜きに遊びに来ませんか

おもちゃ遊び、ボールプール、授乳・お昼寝スペース、保護者のための喫茶コーナーなどを用意してみなさまのお越しをお待ちしています。

(運営:下田市社会福祉協議会 協力:しもだ子育て応援隊ぽっぽ)

#### ひよこサロン

- 時 間/午前10時から正午
- 入場無料(未就学児と保護者対象)

#### ひよこルーム(場所は下記の通りです)

- 時 間/午前10時から午後3時
- 遊・VIVA!入場料 大人・小人(2歳以上)一律100円

妊婦の方も歓迎  
ぜひ遊びに来て下さい

### ひよこサロン



※体調不良の方の入場は、ご遠慮いただく場合があります。

開催日	内 容	会 場
9月19日(木)	ひよこサロン ママ体操/日本3B体操協会	道の駅開国下田みなと4F
10月17日(木)	ひよこサロン パネルシアター等/まいまいの会	道の駅開国下田みなと4F
10月19日(土)	ミニ遊・VIVA!ひよこルーム	稲生沢小学校体育館
11月16日(土)	スペシャル 第5回『遊・VIVA!村』	下田小学校体育館
11月21日(木)	ひよこサロン 人形劇/人形劇団あゆみ	道の駅開国下田みなと4F
12月19日(木)	ひよこサロン クリスマスお話し/おはなしの会ピロシキ	道の駅開国下田みなと4F

## 暮らしの相談開催日程【無 料】

相談やサービスを提供する上で得た情報は、本人の同意なく第三者に提供しません。

### 福 祉 相 談

時 間 9:00~17:00

相 談 員 社協・関係団体

問合せ先 下田市社会福祉協議会:電話 22-3294  
福祉サービスや利用手続き、日常生活における心配ごと等を関係機関と連携して問題解決のお手伝いをします。

月~金曜日(祝日を除)

お待ちいただくことがないよう、必ず事前にご連絡ください。

### ボランティア相談

時 間 9:00~17:00

相 談 員 社協・関係団体

問合せ先 下田市社会福祉協議会:電話 22-3294  
ボランティアをしたい人、力を借りたい人、希望にあった活動のご案内をします。

月~金曜日(祝日を除)

### 介 護 相 談

時 間 9:00~17:00

相 談 員 社協介護支援スタッフ

問合せ先 下田市社会福祉協議会:電話 22-3294

月~金曜日(祝日を除)

### 心配ごと相談

相 談 員 下田市民生委員児童委員

毎月第2・4水曜日

日 程	時 間	場 所
10月9日(水)	10:00~15:00	下田市役所2階会議室
10月23日(水)	10:00~15:00	下田市役所2階会議室
11月13日(水)	10:00~15:00	下田市役所2階会議室
11月27日(水)	10:00~15:00	下田市役所2階会議室

※9月の心配ごと相談は会場の都合でお休みとなります。

## ふれあい広場 来春3月16日(日)開催

毎年みなさまに参加・ご協力をいただいております下田市ふれあい広場ですが、会場の都合により本年度は開催時期を秋から来春へ変更することとなりましたのでご案内申し上げます。みなさまにはご迷惑をおかけしまして誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解いただき、春の開催におきましては是非ご協力を賜りますようお願いいたします。



## 『みんなが誰かのために』寄付者一覧(7月~8月)

下田市社会福祉協議会へ寄付をくださったみなさまです。ありがとうございます。みなさまのお気持ちを大切に活かせます。

〈現金〉 秋葉正廣 様 故 山本 磐 様ご遺族  
〈物品〉 梅内 巖 様(プルタブ) 岩田 多作 様(古はがき)  
ろうきんグリーン友の会 様(タオル)  
伊豆南クリニック職員のみなさま (古切手)  
下田市教育委員会 様 (古切手)

〈順不同〉

# わがまち下田に住み続けたい 社協だより

- ・赤い羽根共同募金
- ・避難所(予定場所)宿泊体験
- ・災害ボランティア活動
- ・社協会費のご協力ありがとうございます
- ・おともだちつくる!ひよこのお知らせ
- ・暮らしの相談開催日程
- ・ふれあい広場開催について
- ・『みんなが誰かのために』寄付を下さったみなさま

# ふだんのくらしのあわせ



7月17日~18日の西伊豆町の大津波被害において、支援に集まってくださったボランティアを受付ける西伊豆町災害ボランティア本部(西伊豆町保健センターにて)





# 赤い羽根共同募金

平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして 支え合いのしくみづくりを応援します。



町に愛を。  
胸に羽根を。



石神井のあかいほね女子

(石神井地区・東部地区)

「赤い羽根共同募金」は、地域から孤立をなくそう、支え合いのしくみづくりを応援する、全国共通助成テーマとして、平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして、支え合いのしくみづくりを応援します。

「赤い羽根共同募金」は、地域から孤立をなくそう、支え合いのしくみづくりを応援する、全国共通助成テーマとして、平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして、支え合いのしくみづくりを応援します。

「赤い羽根共同募金」は、地域から孤立をなくそう、支え合いのしくみづくりを応援する、全国共通助成テーマとして、平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして、支え合いのしくみづくりを応援します。

「赤い羽根共同募金」は、地域から孤立をなくそう、支え合いのしくみづくりを応援する、全国共通助成テーマとして、平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして、支え合いのしくみづくりを応援します。

「赤い羽根共同募金」は、地域から孤立をなくそう、支え合いのしくみづくりを応援する、全国共通助成テーマとして、平成25年度は「地域から孤立をなくそう」を全国共通助成テーマとして、支え合いのしくみづくりを応援します。

赤い羽根共同募金

ご協力頂いた  
募金の流れ

下田市内でみなさまからご協力いただいた赤い羽根募金・歳末たすけあい募金

下田市協同募金委員会（下田市四丁目1-1 下田市総合福祉会館内）

静岡県協同募金会（静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合福祉会館内）

募金総額の約3/4

募金総額の約1/4

〈1〉地域活動費/下田市社会福祉協議会

下田市内で活躍するボランティア団体や障害当事者の会の活動支援、民生委員児童委員のみなさまや、関係各機関とともに、事情があり支援を必要としている方々への支援事業費として使用させていただいております。

〈2〉広域費/静岡県下の福祉施設整備に

静岡県共同募金会配分委員会にて使途を決めます。平成24年度、下田市社会福祉協議会へ社用車として日産ノートが配備されました。

平成23年に市民のみなさまにご協力いただいた共同募金1,545,125円（赤い羽根841,032円＋歳末募金繰越金704,093円）を昨平成24年に下記のとおり使用させていただきました。

《1》下田市における地域活動費として 1,545,125円

- ①福祉教育の実施(中学校10日間、小学校8日間、幼稚園4日間) 395,125円
- ②見守り活動、ふれあいサロン助成 30,000円
- ③65歳以上の寝たきり高齢者を在宅で介護している市内60世帯へ 大判タオルを見舞品として 220,000円
- ④心配ごと相談の運営 毎月2回実施(年間24回) 100,000円
- ⑤地域活動団体へ活動助成金として 800,000円

- しもだ子育て応援隊 “ぼっぼ” ■大賀茂はる便 ■遊・VIVA!ネットワーク
- 下田市健康づくり食生活推進協議会 ■あじさい会 ■下田市老人クラブ連合会
- 下田市身体障害者福祉会 ■下田市女性の会 ■下田市手をつなぐ育成会
- ボーイスカウト下田第1団 ■ガールスカウト静岡県支部第61団 ■あけぼの会
- アンデルセン ■はつらつ健康劇団 ■賀茂災害ボランティアコーディネートの会
- 下田アイフレンズ ■あしたば会 ■賀茂地区里親会 ■下田地区青少年育成会
- 稲生沢地区青少年育成会 ■稲生沢の教育と文化を進める会
- 朝日地区青少年育成会 ■浜崎地区青少年育成会 ■白浜地区青少年育成会
- 稲生沢中学校特別支援学級

《2》静岡県内福祉施設整備等の各市町分負担金として 1,213,341円



## 避難所(予定場所)宿泊体験に53名が参加、避難所生活について考えました

8月24日・25日の2日間、下田市立下田中学校 体育館において、避難所宿泊体験を実施しました。社会人、大学生や学校教諭をはじめ、ガールスカウト静岡県61団、下田市女性の会、NPO法人賀茂災害ボランティアコーディネートの会のみなさんを含めて全体で53名の参加者がありました。避難所宿泊体験は、在宅時や外出先で大きな災害が発生し、数日間の避難所生活を送らなければならない場合、事前に備えて始められた事業です。

今回実施した  
プログラム

- ① 地震体験車による地震動体験  
地震体験車に乗って震度7の揺れを体験
- ② 市保健師による「避難所生活における健康管理について」の話  
避難所で気をつけなければならない健康管理に関する話
- ③ 私たちの地域を知る：災害図上訓練(DIG)  
災害が起こった場合に想定される危険を地図の上に書き込み地域を理解する



地震体験車による地震動体験



避難所生活における健康管理について



災害図上訓練(DIG)



吹き出し



レクリエーション

地震体験車による地震動体験をはじめ、避難所生活における健康管理についての話、災害図上訓練など参加団体、行政機関の皆さんにご協力いただき、2日間を有意義に過ごすことができました。大規模地震はいつ起こるかわかりません。皆さんも避難所生活について考えてみませんか。

## 災害ボランティアセンター活動

平成25年7月17日～18日の大雨により、西伊豆町では床上・床下浸水が350世帯を超える被害がありました。そこで復旧に向けて7月19日に西伊豆町災害ボランティア本部が設置され、29日までの10日間災害ボランティア活動が展開されました。静岡県内の社会福祉協議会は災害時相互支援協定を結んでおり、下田市社会福祉協議会も職員が復旧支援のために現地入りし、私は派遣職員として5日間災害ボランティア本部の運営に携わりました。



災害ボランティア本部の役割は「被災の方が元の生活に早く戻れるように、災害ボランティアと協力して生活支援をすること」と「全国から駆け付けてくれたボランティアが現地で円滑に活動ができる

ように調整・支援をする」ことです。特に水害では時間の経過と共に流れてきた土砂が固まってしまうことや、雨による2次的被害も考えられることから、迅速な対応が求められる状況でした。今回、賀茂地区で初めて災害ボランティア本部を立ち上げることにりましたが、経験豊かな支援団体の協力を得て、素早く体制を整えることができたと思います。

被害の大きかった安良里地区では重機や軽トラック、場所によっては一輪車も入れない住宅密集地もあり、バケツリレーで泥を運び出す状況が多く見られました。やはり想定外の状況においては、マンパワーに頼ることが多くなります。ボランティア本部からの派遣ボランティアはもちろん地元の消防団や自治会のみなさんが連日活動しており、西伊豆町の地縁組織の強さを感じました。西伊豆町社会福祉協議会も全職員が一丸となって活動し、日々の業務を通じて整備した見守り情報等をもとに、地域ネットワークによる支援業務にあたりました。

災害ボランティア本部の運営は静岡県や県内市町が派遣した職員、西伊豆町や



近隣の災害ボランティアコーディネーター、東日本大震災で現地活動に携わったNPOや関係団体もそれぞれのノウハウを活かして連携ができていたため、連日300名を超える災害支援ボランティアを町内各地へ派遣することができました。

今回の活動を通じて県内外で活動している災害ボランティア関係団体と、常日頃から顔の見える関係づくりをしておくことが大切であると再確認しました。また、西伊豆町の方々の近所近隣、互いを思いやる地縁の強さが、今回の迅速な対応に繋がったのだと思います。

下田市社会福祉協議会 久保田 勝